

修身初訓

25131/

T 1A1
22
M1 77

修身初訓卷之一

緒言

此卷ヲ初等第二年前期ニ
學フ所トス首章ニ立教ニ
章ニ幼儀三章ニ衣服四章
ニ飲食五章ニ孝友六章ニ

修身初訓
接物七章二學問ヲ以テ終
ル是修身ノ初步タリ輕忽
ニス可ラス

編者誌

修身初訓卷之一

宮本茂任編輯
宗盛年校閱

首章

○天祖穀を植ゑ給ひて飲

食の基興る

本千古事記

飲食ら必慎節する

張思叔
座右銘

○天祖蠶を採り給ひて衣

服の業起る

本千古事記

衣帶ハ必飭へよ

管子

○天祖新嘗を行ひ給ひて

孝敬の道立つ

本千古事記

人の子と爲てハ孝ふや

ゆふ

大學

人の臣と爲てハ敬ふと

する

同上

○其本を思ひ其恩を酬む

修身要言
 名
 る者ハ臣
 子とて
 志を立つ
 る第一義
 ナルヲ
 告志篇



第二章

○凡そ子弟早小起ま晏く
 眠るを要ハ 童蒙須知
 ○孔子曰く善を見てハ及
 ハざるヲ如くす
 ○惡を見てハ農夫の務て

修身要言
 名
 三
 三
 三

艸を去るゝ如く左傳

○言ハ必信ふすべし苟且

あも詐る處から大和俗訓

○行歩趨踰ハ端正ふすへ

疾走跳躑を可ら童蒙須知

○凡そ喧闘争の處近

べから同上

○小兒の遊び道ハ害なま

をとおへ難し唯後ハ捨スダら

さる遊びを任せかた童子訓

○凡そ奇險ふを近くハ

ら童蒙須知

○猫犬な

と苦むる

を不仁を

長に家道訓

○凡そ火

ふ向を



迫り近くなかれ唯舉止

らさるのみあらばあつ衣

服を焚焚あるを防く童蒙須知

○凡そ道路ふて長者小遇

もく必正立して手を拱し

疾趨して揖せよ同上

家道訓

○凡そ夜卧する小必枕を用
ぬ、寝衣を以て首を覆ふま
かれ、同上

第三章

孔子、紅紫を以て執服とせ
ば、論語

○大志、紅紫を以て治容な
る者、着るべからば、童子訓

○衣服の模様めて、人の心
を推料らる者なり、心を
用ぬよ、同上
○凡そ衣服を着るふ必

先づ衿領を提整し雨襪紐

帶を結ぶ、童蒙須知

○飲食あるふ照管して汚

壊せしむるなかれ、同上

○路を行くふ看顧して泥

ふ漬けしむるなかき、同上

○凡そ日中著る所の衣服

夜臥るふ必更むれハ蚤虱

を蔵さば即敝壊せむ、同上

○晏子一狐裘三十年意儉

を以て俗を化せしむるふ在り

と雖亦其愛惜道あるを至

同上

第四章

孟子曰く、飲食の人を、則人
之を賤む。

○飯を擲るな、かき放飯す
るな、かれ流瀝るな、なけれ

曲礼

○啗食るな、なかれ、骨を齧
むな、かき魚肉を反にあら
れ、狗小骨を投與るな、かれ
獲るを固くするな、かれ、同上
○凡飲食あれハ、則之を食

無れハ則思索をべから
但粥飯を飢ニ充て闕
くべからば童蒙須知

○凡そ飲食の物多少美惡
を争ひ較ぶな同上かき

○酒を狂藥ふて佳味

非を能謹厚の性を移化

して凶險の類とな范質詩は

○酒を好む人も必血氣を

破る脾胃を傷ふ童子訓

○生をたつきて酒を好むと

も、己かき時より慎て多く

飲むべからず、同上

第五章

孔子曰く、夫孝、徳の本也、

○父母に對しては、色を和け、氣を下し、温和を主とし、

下
其
氣
悦
要
事

て事ふべし、家道訓

○父命して呼べば、唯して

諾せず、手小業を執るべし、則

之を投げ、食口ふ阿れば、則

之を吐く、禮記

○凡そ人の子たる禮、冬温

ふーて夏も清くー昏ハ定

めて晨も省る、曲禮

○出れハ必告け、反れハ必

面は、同上

○父母小事ふるも、愛敬二

の心法阿王、初學訓

○愛のゝ少て敬なけれむ、

犬馬を養ふも同一、同上

○敬すぎて愛あくなけれ

む父母の心樂まへ、同上

○兄弟も同胞の親父母も

つぎたる天倫なり、初學訓

○斯千の詩云く兄及ひ
弟式相好^ツ相^ツ猶^ツするあか
れ

○兄も弟も愛ふかく弟悪
くとも似せて愛を薄くす
べからび
初學訓

○弟ハ兄
も敬あつ
く兄悪く
やも似せ
て不敬あ
るべから



べ、同上

○父兄長上、教督する所あらざる、但首を低れ聴愛すべし、妄ふ自議論あるべからば、童蒙須知

第六章

孟子曰く、仁者ハ人を愛ふ、禮ある者ハ人を敬ふ。
○又曰く、人を愛す者ハ人恒ふ之を愛ふ、人を敬ふ者ハ人恒ふ之を敬ふ。
○凡そ愛敬を行ふハ信

を本とすべし 大和俗訓

○信とも愛敬を行ふ心真

實ふ 偽なまらる 同上

○満ち損を招き謙の益を

受く 易

○人道を盈るを惡く謙る

を好む 同上

○已を持つゝ一敬字を得

物に接するゝ一謙字を得敬

以て已を持ち謙以て人に

接せば以て過なかるべし

薛文清

○孔子曰く已小如可ふ者を友とするなかれ
○善人を見て之を效ひ不
善人を見て之を改む善と
不善と皆吾師なり傳家宝
○凡衆坐ふハ必身を歛め

く廣く坐
席を占る
なかれ童蒙須知
○人と毀
まハ人亦
我を謗る



修身要言 卷之二 道徳訓

天は向ひて唾くゝ如く
大和 俗訓

第七章

○宇多帝のたまはく治を
有識ふ訪ひ道を六経より
とりよ御遺誠

○玉琢されハ器と成らず人

學がされバ道を知らば學記

○凡そ學の道師を嚴ふす
るを難とハ師嚴みて道
尊同上

○凡そ人三の好ありて輕
重あり富貴を好むより長

修身要言 卷之二 道徳訓

生を好む、長生を好むより

義理を好む 初學訓

○書を讀めば、古の聖賢の面う其教へを聞くが如し

同上

○凡そ書を讀むハ机按を

整頓し、潔淨端正ならむ

べし 童蒙須知

○書冊を將て整齊頓放し、身體を正うし、書冊小對し、詳緩ふ字を看て、子細分明ふ之を讀め 同上

○凡そ書冊を愛護を要すべし、損汚綴摺すべからず
同上

○濟陽江祿書を讀み未だ
竟らざるに急速ありと雖
必掩束整齊を待て然て後

掩束
誤

起つ

○凡そ文字を言を寫して
言語を代へ用ゐ、行事を示
し當世に施し、後代に傳る
證迹なり、童子訓

○文字を只平正にして讀

み易きを宗とに、同上

○凡そ文字を寫すは高く
墨錠を取、端心研磨し、墨汁は手を汚さぬるなか

れ、童蒙須知

○凡そ字を寫さば、寫し得

て工拙如何を問ひ、且一筆
一畫、嚴正分明を要せよ、老
艸すべからば、同上

○凡そ文字を寫さば、子細
小本を看て、差誤あるべから
ず、同上

○管丞相
十一歳の
詩は月耀
如晴雪梅
花似照星
と作きり



勤學の力想ふべし

修身初訓卷一終

明治三十一年二月調査
代價六拾錢

明治十五年三月廿四日版權免許
同年五月刻成

編輯人 福岡縣士族 宮本茂任

同 縣士族 宗盛年

同縣同區地行番町手幸地

出版所 連壁製本會社

同縣同區下名實町十五番地